



2016（平成28）年に1学科として改組し発足した総合科学部には、1年生186名、2年生181名、3年生183名、4年生162名が在籍している（2019（平成31）年4月1日時点）。グローバル化と地域貢献を教育の柱として目指していることを反映し、提携を結んでいる大学数は29校、留学プログラムも42本あり、留学生数も2015（平成27）年度53名、2016（平成28）年度62名、2017（平成29）年度61名、2018（平成30）年度84名と増加傾向にある。交換留学生の受け入れも多く、留学生と在学生在が交流できるカルチャールウンジが学部内にあり、身近に国際交流を実感できる場として利用されている。地域とつながった実践的な教育の成果もあり、就職先も公務員に加えて、NHKや新聞社などのメディア関係から旅行会社など幅広い。

資格取得としては、2019（令和元）年度に卒業する第一期生で教員免許の取得を目指している学生は14名である。学芸員の資格を取得する学生も5名おり、2019（平成31）

年3月に卒業した学生の中の1名はこの資格を活用して学芸員補助として活躍している。また、公認心理師資格の取得も可能となっており、心理専門職を目指す学生も多いため。学生の研究活動も盛んで、2018（平成30）年に学生が執筆し、公開された論文数は227件、受賞も2件ある。2010（平成22）年から2019（令和元）年までの合計数では、論文数が897件、受賞が22となっている。幅広く学ぶ総合科学部の教育は、専門特化した学部の教育と比較すると専門性が低く捉えられがちであるが、論文数の多さなどからも、学部教育のレベルを高く維持できていることが分かる。このような教育成果は、入学志願者数にも反映しており、2018（平成30）年度に実施した2019（令和元）年度の入学試験において、総合科学部の志願倍率は4.3倍と高い数値を示している。改組しても総合科学部の教育に対する期待は変わらないことが示されている。